DoYu Yamagata
同友やまがた
9
2012 September
Vol.234
月刊 山形県中小企業家同友会 同友やまがた

特集

山形大学連携授業
「山形を元気にする企業家に学ぶ」の全講義を終えて

経営者と社員が共に学び合う「山形支部社員例会」がスタート
～経営者も社員も成長してこそ企業の未来が開ける～

新庄・最上地域「同友会を知る会」の開催

山形大学連携授業

「山形を元気にする企業家に学ぶ」の全講義を終えて

山形大学　教授　福島真司

本年度も、山形大学（以下、本学）、山形県中小企業家同友会（以下、山形同友会）、株式会社きらやか銀行、山形県信用金庫協会加盟４信金との連携協力協定による授業「山形を元気にする企業家に学ぶ」の全講義を無事に終えることが出来ました。この開催にあたり、山形同友会の皆様、岩手同友会の株式会社高田自動車学校田村満社長始め、本当に多くの皆様のご協力を賜りました。記して、心より感謝申し上げます。

本授業は、本学を会場に山形同友会会員の経営体験のご講演とグループ討論を行うパート、山形同友会（山形支部、寒河江支部、さくらんぼ支部）例会に参加させて頂くパート、同友会企業を訪問し、現場での経営体験のご講演と質疑応答を行うパートと、大きく３つのパートから構成されています。昨年度の本授業は、東日本大震災の発災を受け、企業訪問パートにおいて、宮城県、岩手県の各同友会事務局のご協力を得て、被災地で、地域を守り、命を守るために、文字通り命懸けの覚悟で踏ん張っていらっしゃる宮城県の株式会社タカノ鐵工_野剛社長、岩手県の株式会社高田自動車学校田村満社長を訪問し、他の２つのパートと併せ、働くこと、生きることの根源を本気で考え抜くという授業を開講いたしました。

今年度の本授業は、震災からまだ１年しか経過していないことから、再度、被災地を訪問し、１年を経過した現在、どのような様子で復興を進めていらっしゃるのかを拝見させて頂きたいと考えました。実は、昨年度訪問させて頂いた２社とも、後期に私が担当する別の授業においても訪問を実施し、震災後半年経ったご様子をお伺いしていました。この様子は、受講生たちが制作したwebサイトや、山形同友会会員企業でもある株式会社アイ・エム・シー発行のタウン誌『ZERO☆23』で報告させて頂き、被災地からの熱いメッセージを山形に届けました。今年度は、株式会社高田自動車田村社長に３度目の訪問をお願いし、６月に訪問することが叶いました。また、翌７月には、地元山形同友会会員企業である鶴岡市の株式会社タマツ玉津弘之社長を訪問させて頂きました。

東日本大震災の復興の過渡期に、東北に所在する本学に入学した学生には、被災地を知り、過酷な現実を正視し、その中から希望の光明を見い出し、自分自身の頭と心で未来を考え抜き、評論家としてではなく、プレイヤーの一人として、どういう形であれ、東北の復興に関わる義務を持つと私は思っています。1000年に一度と言われる災害に遭遇した私たちは、東北の再生の歴史の生き証人となり、自らが東北に積極的に関与することで歴史を作り出すことのできる立場にいます。

震災後、初動で人命を救うための行動を起こし、自社の敷地に救援者、支援者や避難者を受け入れ、社員さんを一人も解雇せずに雇用を守り抜き、家族財産を失った社員さんたちに生きる力や勇気を育み、日頃からのしっかりとした準備をベースに本業を力強く再生し、新たな雇用を創出するために地域の未来を創造する新会社を設立し、１年前、半年前よりも、先へ、さらにその先へ進み続ける田村社長のお姿から、学生たちは、「本当に地域を守るということ」「働くことが生きることに対して持つ意味」、そして、「人間が生きることとは何か」を自問自答し、自らが考え抜くための機会をいただきました。

玉津社長を訪問した際には、人間が必ず迎える老いや望まなくて負ってしまう障がいに対し、お客様の「為に生きる」という理念をもとに、福祉用品の製造、販売、レンタル、洗浄を一気通貫で行うようになった経緯から、玉津社長の想いに触れ、社会の「為に生きる」、人の「為に生きる」ことを徹頭徹尾考え抜くことから、大手のメーカーには実現出来ないお客様のニーズを感じ取る力が生まれ、お客様の幸せを生みだす商品やサービスを創造し、社員さん一人一人の自己実現にもつ

ながっていく幸せの好循環を強く感じました。「効率の悪いこと」「人の嫌がること」「汚いこと」をやり抜く姿勢を追究することで、厳しい日本の経済環境下でも、市場を切り開き、地域に貢献し、益々発展されるであろうことを感じました。

また、今年度は、本学を会場とするパートにおいて、講演を頂くゲストスピーカーの構成にも新たな試みを加えました。３名のゲストをお迎えするうち、１名は例年通り、山形同友会の代表理事をなさっており、経営指針をもとに心の経営をなさっている株式会社アドクリーン安藤社長にお越し頂きましたが、もう１名は、本授業の講演者では始めての女性経営者である株式会社菓子工房COCOイズミヤ庄司薫社長をお招きいたしました。例年、女性の受講生がいながらも、男性経営者の講演が中心でしたが、女性が、様々な困難に立ち向かいながらも、強く、しなやかに、楽しく、家族を持つ女性として輝きながら企業経営をなさっている姿を見せたいという想いから、講演をお願いいたしました。女性であることに対する社会の壁に、想いを持って立ち向かい、女性が長く働き続けられる会社の実現をめざし、着実に歩を進めていらっしゃる庄司社長の姿に、女性だけではなく、男性も大いに感銘を受けました。最後の１人は、本年度から本授業の非常勤講師をお引き受け頂いており、本授業の初年度から様々なサポートを頂いている株式会社CSC齋藤志直社長にお願いしました。齋藤社長は経営者でありながら、『600通のラブレター』の作家という一面も持っていらっしゃるため、講演には、企業を経営することと生きることとの重なりや、自分の人生を掛けて家族を愛し抜くことを中心的なテーマとして、講演を頂きました。奇跡とも言える愛情の形に、「人を愛すること」の深淵に触れさせて頂きました。

企業訪問パートと併せ、学生たちは、企業経営に触れただけではなく、一人の人間としての生き方、そして、一人の女性や男性としての生き方、家族を愛することやパートナーを愛し抜く姿勢に、共感し、感激し、時に感極まりながら、働くことや働き方、仕事を通して実現することは、自分の人生を生きること、正にそのものなのだということを、深く理解しました。

同友会例会に参加させて頂くパートでは、山形支部、寒河江支部、さくらんぼ支部の計９回の例会に参加し、沢山の同友会会員から、一般的な学生生活を送っていれば、決して得ることのできない学びを頂くことができました。

最後に、本授業に関係して下さった全ての皆様に最大限の感謝の気持ちを込めつつ、本授業の最終レポートで問いかけた「この授業を通して得た自らの成長は何か？」に対する学生達の回答を抜粋し、記載させて頂きます。

「今までの自分は、企業をどこか無機質なモノのように感じていました。しかし、この講義を通し、企業は人なのだと思うようになりました。生身の人間（経営者）が真剣に、本気で社員とお客様を愛する、という姿勢が会社をまるで血の通ったモノのようにしているのではないでしょうか。人のために、と語る社長さん方はいきいきとしているように感じました。」

「収益の為だけではなく会社の性格を形成するというか皆で同じ目標を持ちそれに向かうモチベーションをいかに設定するか。鶴岡で顧客のニーズ以上の価値を提供する。斉藤社長の手紙。陸前高田で夢を与える。これら一貫した会社の哲学のようなものが経営において重要なものだと感じた。」

「この授業において、『普通と言うのはない』というのがとても大きく感じました。色々な人の人生を知り、自分が歩んできたかのような感覚になり、社長さんの方々とお話ししている時点で考えられないことなのに、自分の経験値としてとても大きなものになりました。」

「自分が何故その仕事をしたいのか、どういった人生を送りたいのか、という自分にとっての初心、理念を社会に出るまえにしっかり確認し、それを忘れずに仕事をします。またそれらを確認するために、大学生活の間に色々な方とお会いし、お話出来る機会を無駄にしません。」

「『つながること』。同友会という場に参加させていただいて、地域のために生きる企業同士の、”ゆるやかだけど、大きく、そして確かなつながり”というものを感じさせていただいた。同じ業種同士でも、違う業種間でも、お互いがより良いものになっていくために、つながり、学び合うという姿勢に感銘をうけた。今後、自らつながろうとすることも。誰かをつなげようとすることも、意識的にやっていきたいと思った。」

「社会に出た後は、『誰かのために』を実感できる仕事がしたい。どんな仕事でも、『誰かのために』なるとは思うが、それを実感できるというのは、大きな動力源の一つになると思う。方法も時期もまだ決めていないが、最終的に、自分の力は地域に注ぎたいと思うので、経験と知識をこれから積み重ね、自分で納得できる決断をしていきたい。」

経営者と社員が共に学び合う「山形支部社員例会」がスタート

～経営者も社員も成長してこそ企業の未来が開ける～

企業の存続・発展のためには、社員の成長が不可欠と言われています。今年度、山形支部では、会員企業に役立つ支部活動をめざして、社員の成長を促す「社員例会」を７月、８月、11月、12月と４回開催します。その第１回目となる社員例会が、７月24日に山形ビッグウィングで通常例会と兼ねて開かれ、経営者と社員が参加し、共に学び合いました。

第１回社員例会の報告に立ったのは、サンシステム開発㈱ 代表取締役 中村友祐氏。「時代に選ばれる企業づくりへの挑戦」をテーマに、経営指針書を柱に自らの成長と人材育成の実践について報告しました。

はじめに中村氏は、「仕事は休みがあってそこそこ給料があればいいという考え方で、給料は車と飲み代につぎ込んでいた。営業でいろんな人と出会い、失敗しながらもお客様に深くかかわり、仕事の楽しさを見出してきた」と、自らを振り返り、「仕事を好きになる努力をしよう」と語りかけました。

変化が激しいソフト業界で二代目の社長となった中村氏は、何を売っているのかを問い直して事業領域を再構築。そして、「ＩＴ経営を共に創造する」を基にした経営指針書を作成、社員と実践します。すると、営業から総務まで一人でやっている社長を見かねた社員の人達が、自ら少しずつ手伝うようになっていきました。

それに満足していたと語る中村氏は、今年、経営指針書に「教育」の視点が抜けていたことに気づき、サンシステム例会を開催することにしました。毎月１回、仲間の会員企業の経営者から講師を引き受けてもらい、討論するようにしました。経営者と社員が同じテーマで学び合ったことで、本音でいろいろな意見が出るようになり、社員が変わってきました。

掃除でも埃のたまりやすいところの向き変え、工夫するようになりました。そんな社員の姿から「社員はやっている」ということに気づいたと言います。「社長は学んで成長するのがあたり前。社員も成長の義務がある。成長が止まると中小企業は衰退する」と語り、「経営者は社員の能力を開く場をつくっているのか？社員の成長の芽を摘んでいないか？」と問いかけました。

さらに、若い社員をナンバー２にし、自分がしていた仕事を任せます。すると「部下がいうことを聞いてくれない。なんとかしてくれ。一般社員に戻して欲しい」ときました。当事者同士を話し合わせると、目の前でぶつかり合いました。言いたいことを吐き出させた後、「これからどうするか」を話し合い、上手く回り出しました。今、ナンバー２は部下からも育ててもらい、お互い育ち合うようになってきました。

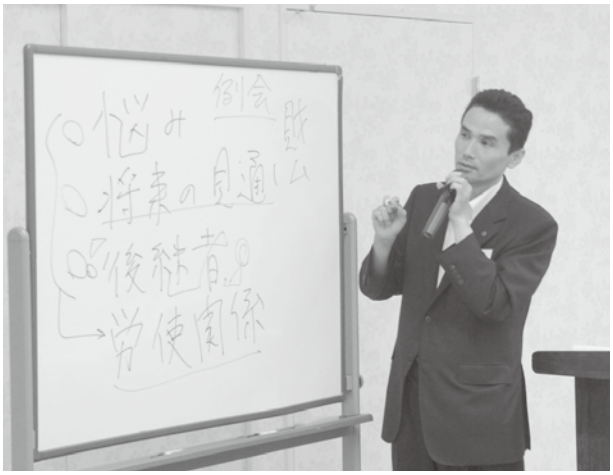
「ぶつかることも必要で、そうしないと質の高い仕事ができない。私は社員に経営指針書で方向性を示し、社員に仕事を与えてきた。社長は無理を言うが、それは期待しているからです。ぜひ、期待に応えて欲しい。当社ではこのソフトはお客さんのため本当に必要かと議論するようになった。ＩＴ経営を共に創造すると実践を重ね、ようやく身に付いてきた。お互い磨き合いながら選ばれる企業づくりをすすめ、より良い山形をつくっていこう」と、語りました。

参加者からは企業も変わらなければならない時で、社員も経営者も成長しなければならないといった意欲的な声が多数寄せられました。

新庄・最上地域「同友会を知る会」の開催

7月23日、新庄市ニューグランドホテルにて、「同友会を知る会」が行われました。参加者13名と少ない人数でしたが、熱く同友会の魅力と自社の経営課題を語りあいました。

「同友会」の学びを活かし、自分が、社員が、会社が変わる



松田代表理事が、はじめに「同友会の歴史と理念」を説明。同友会歴14年の松田氏は、2代目としてH2年に入社し、当時を振り返り、「不安で不安でたまらなかった。悩みの塊だった」といいます。次々と出てくる課題に追われ悶々としていた時に、同友会に入会します。

入会後は、水を得た魚のように全支部の例会に参加し、同じような悩みを持っている経営者と出会い、「あせらなくてもいい」と気づき、学んだことを少しずつ、社内での実践へとつなげていきました。

「労使見解」との出会い

入会し2年目で山形支部幹事になり、4年目で社員共育委員会に所属し、「労使見解」と出会います。同友会では、経営者のバイブルともいわれる「労使見解」の精神から、社員は能力を持っている。能力を発揮して頂ける舞台をいかに設定できるかが、社長の役目だと気づき、「お叱りを頂戴すれば、全て私の責任。能力を発揮できる仕組みになっていない」からだと経営者の責任を強調します。

「実践できない焦りもある」といいながらも、財務体質を良くすること、次の後継者の課題を持って、中堅社員の成長が会社の成長につながると確信し、時には斬新な人事異動も実行しました。「あたりまえを疑え。社内の常識は社会の非常識になっていないか」と社員に問いかけ、席替えを毎月実施するなど、ワクワク・ドキドキの社風になっています。

最後に、「会社は社会から試されている。試される楽しさがある」とまとめ、同友会の活動をとおし経営者として成長しているご自身の体験をお話していただきました。

参加者から、「経営指針づくり」「社員教育の活動」などについて率直な質問がだされ、懇親会の中でも意見交換をし、交流を深めました。

お知り合いの経営者をご紹介ください。

まだまだ、同友会の活動や魅力を伝えきれないところがありますが、今後もさくらんぼ支部例会、第10回経営研究集会などにお誘いをしながら、新庄・最上地域の仲間づくりに取り組んでいきます。

後継問題、新規事業、社員教育などでお悩みの方に、ぜひ、同友会をご紹介ください。

また、お知り合いの経営者を同友会事務局までご紹介ください。

第10回　経営研究集会

山形から日本を変える

記念講演

講師：慶應義塾大学先端生命科学研究所　所長　**冨田　勝**氏

山形県鶴岡市にある先端生命科学研究所はITを駆使した「統合システムバイオロジー」という新しい生命科学のパイオニアとして、世界から注目されています。自然豊かな環境の鶴岡キャンパスからは独創的できらりと光る活躍をしている人が数多くでており、HMT社、スパイパー社などのベンチャー企業が鶴岡に誕生し、すでに雇用を生み出しています。

全国の高校生を対象とした生命科学の研究コンテスト「高校生バイオサミット」の開催や地元の高校生を研究助手に採用するなど、将来の日本を担う人材の育成にも力をいれています。

「教育で最も重要なことは、教えることではなく、面白さを伝えること。面白さが伝わり、火がつけば、あとは環境を整えるだけでどんどん吸収していく」と語る冨田氏の講演に、これからの人材育成と山形の可能性を学び合います。

日時　2012年**11**月**9**日(金)　受付13：00　開会13：30

会場　**パレスグランデール**　山形市荒楯町1-17-40　TEL023-633-3313

◎参加費：2,000円　◎懇親会費：5,000円

第1部	第2部	第3部
記念講演	大グループ討論	懇親会
13:30～15:15	15:25～18:25	18:40～20:00

第10回経営研究集会　実行委員長　金田史生

山形同友会の恒例行事『経営研究集会』も今年で10回目となります。そんな節目の記念行事に相応しい、すばらしい方を講師にお迎えすることができました。

鶴岡市にある、『慶應義塾大学先端生命科学研究所』所長の冨田勝氏です。今年の庄内支部総会でもご講演いただきました。私自身も総会に参加し拝聴することができたのですが、冨田先生の肩書きから、最初は「なにやら難しい内容では…」と思いながら聞かせていただいておりました。ところが、全くそのようなことはなく「これからの時代、自然豊かで歴史と文化のある地方こそチャンス。鶴岡から世界へ羽ばたく人材を育成する。」「山形から日本を立て直したい。」「庄内からノーベル賞を…」といった、熱く、ワクワクする内容だったのです。

研究所では高校生を助手に登用したり（有給というから更に驚き！）、科学研究コンテスト「全国高校生バイオサミット」の開催、教え子の中からはベンチャー企業も（鶴岡で！）誕生しているのです。

そんな冨田先生の、熱い想い＝理念、将来の日本を担う人材の育成＝社員共育、自然豊かな環境でこそ培われる感性を大切に＝地域づくり・地域振興・地域貢献、まさしく我々中小企業家に相通ずる記念講演となることでしょう。同友会会員それぞれが経営課題を持ち寄り、皆で考え、皆で解決・克服するために、皆で学び合いましょう！

“いかす”経営者の皆さん、ご参加お待ち申し上げます！

9月支部例会案内

どちらの支部例会にも参加できます。詳細は、e.doyuまたはHPをご覧下さい。

庄内支部

庄内支部9月例会（公開例会）

南洲翁遺訓に学ぶ経営

■講　師：㈶荘内南洲会　事務局長　阿曽　昇氏
酒田郷土史研究会　会長　堀　健悦氏

■日　時：９月20日（木）18：30～
■場　所：南洲会館
（酒田市飯森山2-304-10　TEL0234-31-2364）
■参加費：無料（懇親会費 3,500円）

西郷隆盛と荘内藩士の交流。
今に伝わる西郷隆盛の言葉から経営に必要な大切なものを学びます。
終了後には、懇親会を予定しております。お誘い合わせの上、奮ってのご参加お待ちしております。

置賜支部

強い企業をつくるためのABC
～今のお客様と商品で何年、食べていけますか?～

■講　師：㈲奥山経営センター
代表取締役・税理士　奥山享氏

■日　時：９月21日（金）18：00～
■場　所：伝国の杜
（米沢市丸の内1-2-1　TEL0238-26-8000）

2012年度置賜支部スローガンは、「時代の変化に対応できる強い企業をつくろう」です。大きく変化している今、強い企業にするためには、しっかりと外部環境と内部環境を分析することが必要です。

９月、10月の置賜支部例会では、奥山享税理士を講師に迎え、商品やお客様の基本的分析を学び、自社の現状認識を行い、立ち位置を明確にし、時代に対応した戦略を学び、これからの飯の種を考えます。

２回シリーズ（10月例会は、10月18日）でじっくり学び合う例会です。お誘い合わせの上、ご参加ください。

寒河江・さくらんぼ支部

寒河江・さくらんぼ支部合同例会

新しい仕事づくり
～挑戦こそ　わが社のDNA～

■報告者：㈱ヴィ・クルー
代表取締役　佐藤　全氏（宮城同友会理事）

■日　時：９月25日（火）18：30～
■場　所：プラザシンフォニー
（西村山郡河北町谷地月山堂160-2
TEL0237-73-2121）
■参加費：無料（懇親会費 4,000円）

㈱ヴィ・クルーは、宮城県白石市で、循環型社会を考えたバス専門の車体整備、車体製造、製品開発と新しい可能性と時代のニーズに対応した取り組みを続けている。約２万㎡の整備工場は東日本最大規模を誇る。「かかわるすべてがゲンキに」の理念のもとで、社員と共に情熱とあふれるパワーで、移動販売車、移動図書館などの車体製造へと新しい仕事づくりに突き進んでいる。

しかし、ここまで来るのに幾多の困難、危機も経験してきた佐藤社長。それを乗り越えてきた原動力は、天性の行動力にもあるが、宮城同友会、経営指針、共同求人活動で、毎年新卒採用を続け、社員のゲンキが地域社会に感動を発信しているからだ。

佐藤社長はとにかく熱い人である。人材育成、経営戦略、後継問題もすっきり！
みなさんの経営にお役に立ちます。ゲストの方にもわかりやすい内容です。ぜひ、参加してください！

山形支部

数字から逃げない！自分の目で見よう！
B/S（貸借対照表）の視点から強い会社へ

■報告者：㈲兼子会計事務所
所長・税理士　兼子和伴氏

■日　時：９月26日（水）18：30～
■場　所：山形ビッグウィング　４階　研修室
（山形市平久保100　TEL023-635-3100）

Ｐ／Ｌ（損益計算書）は見るけれどもＢ／Ｓ（貸借対照表）は、よく分からないという声があります。財務体質を強くするためには、売上や利益などの数値のみならず、主要な経営指標を把握し、自社の経営状況を正しく知る必要があります。

９月例会では「この厳しい経営環境の中、Ｐ／Ｌだけではなくｂ／Ｓの視点を持つ経営者が強い会社、永続できる会社をつくっていける」と語る兼子所長よりＢ／Ｓの基本を学び、自社のウィークポイントを確認し、改善につなげていきます。

第5回理事会報告

■日時：2012年８月８日（水）18：30～20：40　■会場：同友会事務局　■議長：越前屋理事
■出席：青柳、阿部(和)、阿部(秀)、越前屋、川合、斎藤、佐藤(一)、土屋、松田、安藤、後藤、若木、及川、島貫、佐藤(松)、金田、委任状：菅原　事務局：伊藤、矢作(18名)

越前屋理事が議長を務め、川合代表理事の開会挨拶で始まりました。挨拶は、「連日暑い日が続き、ロンドンオリンピックもあり体調を崩さないようにしよう。同友会は重点課題にそって、進捗状況を振り返ることが大事。自社においても、経営課題を抽出し、何をどうするのか戦略を考えますが、今日の理事会でも、本音で語りあえる仲間づくりをどうしていくのか、本気で話しあっていこう」と述べました。

■報告事項

１）各委員会報告

・政策委員会：齋藤理事より、7/18山形銀行学習会について報告があった。今回は初級編として位置付け、対談式による学習会で、次回は広い会場で、内容も金融円滑化法に関するものなどを検討していく。

・社員共育委員会：阿部理事より、幹部社員研修(9/5,10/15)について報告。6月に実施した「採用アンケート」結果報告と、2013年度合同入社式開催の検討と一般社員研修の資料として活用することを報告しました。

・経営指針委員会：後藤理事、事務局矢作より、8月25～26日に発表会開催と、理念・労使見解・財務コースのセミナー開催の検討に入っていることを報告。

２）支部報告

・山形支部（青柳支部長）：7月は社員例会を開催するなど順調に進んでいる。８/10小グループリーダー会議を開催し、今期の方針説明をする。事前アンケートには、リーダーの悩みがたくさん寄せられている。

・寒河江支部（後藤支部長）：8月グループ長研修を兼ねたビアパーティを開催する。9/25寒河江・さくらんぼ支部合同例会を開催し、会員増強につなげていく。

・さくらんぼ支部（及川支部長）：８／３ビアパーティには、たくさんの会員が参加し、ビビジネスマッチグや経営談義を熱く語りあえた。

・置賜支部（島貫支部長）：前期は社員教育をテーマにした例会を開催し、大変好評だった。９、10月は奥山税理士を講師にむかえ、時代に対応した戦略を学ぶ。

・庄内支部（事務局　矢作）：７月例会は酒田で開催し、同友会の活動が広がりつつある。9/20公開例会をし、増強の山とする予定。

３）中同協情報化推進本部(7/30)（事務局　伊藤）

①１カ月遅れたｅ．ｄｏｙｕ新システムが9/28リリース、その説明会が9/12開催されること、会員情報管理システムのクラウド化の進捗状況、中同協ＨＰリニュアル等について報告。

②中同協ＤＯＲ100号記念公開シンポジム（８／７）の報告

４）パート事務局員の石川さんが、8月20日付で退職することになった。

■承認事項（入・退会承認）　2名入会3名退会　8/8現在403名

■討議事項

議題１：山形県中小企業振興条例（仮称）策定の取り組みについて

１）土屋理事より、山形県中小企業振興条例（仮称）の意見交換会開催について報告があり、８月22日、同友会より９名出席することを確認。

●各支部幹事会での学習会については、政策委員会で担当し下記の日程で行う。

・寒河江支部幹事会：９月３日（月）午後７時～　担当者：土屋

・庄内支部幹事会：９月３日（月）午後６時30分～　担当者：斎藤

・置賜幹事会：９月４日（火）午後12時～　担当者：伊藤

・さくらんぼ支部幹事会：９月６日（木）午後12時～　担当者：若木

議題２：第10回経営研究集会について

・金田実行委員長より、実行委員会(8/25)の報告があり、副実行委員長が菅原司氏から尾形泰弘氏（庄内支部）に交代することが承認されました。案内チラシの作成については、3000枚作成予定し、現在校正中。

・各支部参加目標数を下記のように決定。

山形/100、寒河江/20、さくらんぼ/20、置賜/15、庄内/20、最上/5、ゲスト/20（200名）

・グループ長研修開催について提案され、承認されました。

●日時：2012年10月19日（金）18：30～21：00

●会場：山形ビッグウイング　４Ｆ　研修室

●講師：中同協　専務幹事　松井清充氏

議題３：会員増強の取り組みについて

１）ゲスト名簿の件

安藤代表理事より、８月以降の会員増強とゲスト名簿、進捗状況を報告し、ゲストの紹介依頼があった。例会ワンゲスト運動と増強の具体的な取り組みについて、①理事より、ゲスト名をあげること、②行動できる人から、入会のクロージングまで行動日を決める。③各支部の例会予定表をアップし、例会にお誘いすることが決定。

２）小グループ活動について

松田代表理事より、小グループ活動についての提案があり、①各支部の情報交換をする。②全国の活動事例に学ぶ。③会員がどの小グループに所属しているか、わかるようにすることを確認。

３）最上支部立ち上げの件

松田代表理事より、7/23同友会知る会の報告。参加者13名と人数は少なかったが参加意識が高い方に参加してもらい、同友会の活動に興味をもってもらった。今後も粘り強く勧めていく。会全体で会員増強していくことが大切。例会で経営の本質を語れるのは同友会の特長。理事の方に率先して、自分の会社を良くし、自分の言葉で同友会の魅力を語ろうと訴えました。

今後の取り組みとして、支部長候補、支援体制等を明確にし、戦略的な立ちあげをめざしていくと報告。

■その他

①中同協青全交（10/4～5　島根）の呼びかけ　目標：２名　（現在４名決定）

②北海道・東北ブロック支部長交流会（青森）の案内と参加呼びかけ
日時：９月27日（木）～28日（金）　＊対象：支部長・副支部長、地区会長

③事務局夏季休暇のお知らせ(8/13～816)

④阿部社長より、６月に開催された「東北食と農の見学交流会」の御礼の挨拶がありました。

⑤次回理事会日程
●日時：９月12日（水）午後６時30分～午後８時30分
●会場：同友会事務局

■閉会挨拶（松田代表理事）

心の通う同友会、理事会にしていきましょう。情報化の時代といつつ、アナログの同友会でいきましょう。

新会員紹介

◎ 井上　哲寿氏
井上公認会計士事務所　代表
業種　会計に関するアドバイザー業務、税務業務
山形支部

◎ 田中　悟志氏
㈲田中製作所　代表取締役
業種　製造業、人材派遣事業
山形支部

同友やまがた9月号（2012年9月1日発行／通巻234号）　From Editor

★毎年楽しみにしているラジオ番組にＮＨＫ「夏休みこども科学電話相談」があります。「どうしてカマキリのメスはオスを食べるの？」「北極のクマは南極に住めるのですか？」「太陽はいつ爆発するの」といった質問は大人でも知らなかったことを知る面白さがあります。ラジオの向こうの顔の見えない子どもたちと電話でやり取りするアナウンサーや動物、宇宙、科学などのジャンルの専門家の先生たちの緊張感がこちらまで伝わってきます。★「どこに住んでいるのかな」「何歳ですか」「どんな質問かな」と質問を引き出し、緊張感を解きほぐすような心配りが実にいい。専門家の先生たちの「なんでも聞いてごらん」と覚悟も感じ取れます。時には4～5歳の質問には、専門用語を使わずに、実に丁寧に説明し、「面白いところに気付いたね」「試してごらん」と一緒に考え、好奇心や興味がさらに広がっていく。★これが、企業人になるとそうはいかなくなります。「常識でしょ」「考えたらわかるでしょ」と一括する時もあり、声のトーン、表情、「忙しいオーラ」を発散し、「声をかけにくい」「いつも忙しそうで話ができない」と社員との会話のきっかけをつぶしていると指摘されました。★コミュニケーションが大事とわかっていても、仕事の忙しさを理由に、心遣いや緊張感が薄らいでいることを感じています。9月を迎え、心の栄養剤を補って、わくわくするような毎日にしていきましょう。　（由）

〝知り合い、学び合い、援け合い〟
山形県中小企業家同友会
〒990-2461　山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴァン 102号
TEL(023)645－5500　FAX(023)645－5583
URL:http://yamagata.doyu.jp/　E-mail:info@yamagata-doyu.jp